

オブジェ・パネル・乾漆

a2200407景山葉月

デザインコンセプト

オブジェ/温

人と人とは支え合って生きているものである。そこからインプレッションされる言語に「温もり」があり、人の心がお互いに成長していくことを表現した。半艶消しの塗り立ての技法で仕上げた。

パネル/起端

様々な事柄の頂点には「始まり」がある。ものごとが起っているきっかけは一つであり、そこから多様に枝分かれしていく様子を平面で構成した。螺鈿と卵殻の技法をメインに使っている。

乾漆皿/紫陽花

アジサイの花と葉をイメージした皿で、素地は麻布を使っている。

制作工程

オブジェ

- 1,布着せ ×2
- 2,布目揃え ×2
- 3,切粉付け
- 4,錆付け
- 5,下塗り
- 6,化粧錆
- 7,中塗り(呂色漆)
- 8,中塗り(朱)
- 9,上塗り(朱)
- 塗り立て

パネル

- 1,木固め
- 2,切粉付
- 3,錆付け ×2
- 4,化粧錆
- 5,下塗り
- 6,中塗り ×2
- 7,上塗り
- 加飾
- ・螺鈿
- ・卵殻
- ・桜貝
(細かくしたもの)
- ・銀粉
- ・金粉
- 8,固め
- 9,塗り込み
- 10,銅擦り
- 11,呂色磨き

乾漆皿

- 1,発泡剤の型に黒サーフェーサーを塗る
- 2,錆付け
- 3,布着せ、目擦り ×7
- 4,型からはずし、切粉付け
- 5,錆付け ×2
- 6,中塗り
- 7,化粧錆
- 8,中塗り
- 9,上塗り
- 内面
- ・銀蒔絵 呂色仕上げ
- 外面
- ・石目地仕上げ



オブジェ/温
高さ50cm 40×20



パネル/起端
P20号 72.7×53.0



乾漆皿/紫陽花
深さ3cm 23cm×27cm

考察

会津に来て、ものを作ることへの興味から、会津の漆芸をやってみたくて思っていた。漠然と捉えていたが、実際に漆を扱ってみることでイメージは広がった。まず、赤や黒の漆器に限ったものではないと知ったのがとても大きい。漆はさまざまな表現の可能性がある素材である。漆器としてではなく、漆という素材のおもしろさに強く惹かれた。作品制作では、様々な技法を学んでみたいと思い、オブジェ・パネル・乾漆皿の三つを制作した。中でも、パネル制作では特に興味があった加飾の分野を体験でき、自分のなかでプラスになったことが多い。これからも、さらに漆の性質を知り、ものを作っていくことに励みたい。